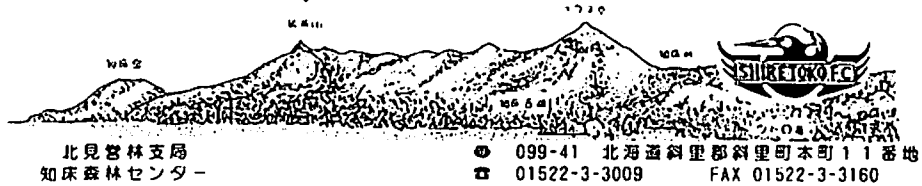


# 知床の森から

平成6年2月 第29号



北見営林支局  
知床森林センター

☎ 099-41 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
☎ 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160

## イベント

### 実施できてホッ!

### 第4回「森とのふれあい」

### 歩くスキーによる森林教室

歩くスキーによる第4回「森とのふれあい」は2月26日(土)、斜里町民グラウンドそばの国有林で実施しました。町近くの森は今年も雪が少なく、降ってほしいという希いは大雨となってしまうがっかり。

こんな状態では中止かと思いきや、それが前日からの吹雪でしっかりとした雪が積もり素敵なプレゼントとなりました。

当日は曇りで参加者の町民13名とセンター職員はスキーをはいてイベント実施の森に入りました。この森は潮害防備保安林で地形が複雑かつ高低に富み、コースに沿っていろいろな林が展開されます。参加者の中には木立ちの中をスキーで歩くことに戸惑っている人もいました。坂で転んで森中に響くような悲鳴を上げている女性もありましたが、スキー操作にもなれ森の中でのインストラクターの説明にも余裕をもって聞いていました。

幾層にも綿雪を乗せたトドマツの葉、爾玉のように雪を付けた広葉樹の枝などが織りなす立体的な森の姿はわたしたちを魅了します。雪面の凹凸や触れる空気にもそこはかたなく春の気配が感じられます。そしてキタキツネの足跡が動物の存在をうかがわせます。こんな中を一行はコースを登り下りをくりかえし、心地好い汗をかきながら全コース3kmを90分かけて一周しました。

スキーを脱いだ後センター職員手作りの甘酒や紅茶でのどをうるおし、短い午前中のスキーを森に遊んだ満足感を胸にお別れをしました。

町のすぐ側にこんなに楽しめる変化に富んだ森林(隣接する町有林も含めて)を持つ斜里町民はほんとうに幸せです。今後とも身近かな自然に目を向ける人たちが増え、そしてそういう人たちのお蔭に立ちたいというのがセンター職員の希いでもあります。



## 気がつけば…… イベント実施20回

データが語る一  
森林レク・in知床参加者動向

四季を通じて実施しているイベント「森林レクリエーション・in知床」は、昨年12月末をもって実施20回を迎えました。知床森林センターが設立されたのが昭和63年3月で、同年9月に第1回のイベントをスタートしています。実施場所はすべて知床半島の国有林で、夏秋の登山7回、冬のスキー5回、春秋のトレッキング8回を行い、それぞれ自然観察を中心に据えています。

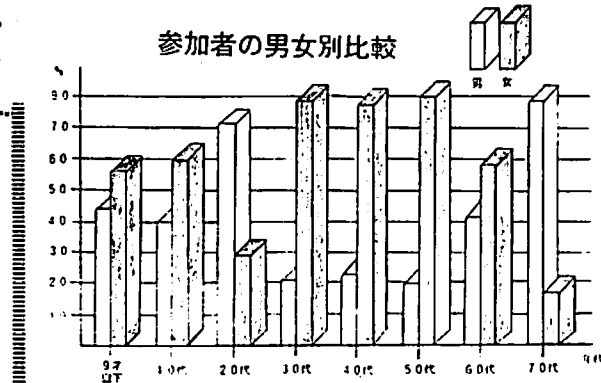
参加者は北見市を中心とする近隣市町村から…というのが圧倒的で、例外的には愛知県・千葉県からの参加もあり、さらに妙齡の異邦人の参加という意外なこともありました。

参加者の年代は40~60代が全体の75%を占め、20代が1%と極端に少ない状況です。後者の層は学生・若い社会人層で、学業や仕事の専念期で趣味もマルチ傾向であり、なかなか森林に目に向かないせいかもしれません。

参加回数は1・2回が大多数ですが、中には10回・11回参加という記録を持ち、センター職員に楽しそうに自慢する人もいます。

男女別の比較では…タフですね、女性は一。

参加者の男女別比較



この参加者の動向は1月28日実施の平成5年度北見営林支局業務研究発表会に発表しております。

### 今ときは… やつぱり流水!

寒さに震える1月28日、昨年より半月早く流水が斜里町ウト口に接岸しました。

流水が来ると気温はさらに低下し、それを嫌う人もいますが、オホーツク海の流水接岸は春の大事なセシモノです。

いま旅する人は氷と戯れ、生活する人は春の海明けをじっと待っています。

茫茫と広がる白い大氷原、大陸に接するスケール、氷原に舞うオオワシやオシロワシ、壮麗な日没、これらが北緯44度の斜里町で容易に見られるこの時期は、酷寒に生きる人びとへの自然の贈物といえます。

